集うだけでも何かが生まれる
―同窓会の意義を考える―

支部長（三―10）　三宅　忠和

私たちは同窓会に何を望むのだろうか。清香会東京支部が今後どのような活動を展開していくことが望ましいか、の示唆を得られるかもしれない。そこで同窓会という組織の意義について考えてみた。

いま、絆や人々の集まりがとても重要になっている。そしてそれがどんな性格のものかが問われる。同窓会は他の組織と比べて特定の思想・信条が入るべきではないし、私的営利をもたらすものでもない。ゆえに、一般的には信頼のおける集まりであり、それは現代に残された数少ない、極めて貴重なものであると考えられよう。複雑な社会になればなるほどネットワーク作りの重要性がいわれるが、私たちはすでに「清香会」というネットワークを持っている。

同窓会組織としては、年配の人達が同窓会に抱く意義と、比較的若い卒業生が期待することとは開きがあって、一つにまとめることは難しいのかもしれない。しかし、同窓会は年代の差を超えて結びつく何かがあるということであろう。若い時代には母校の概念よりも同時代の仲間意識の方が強いかもしれないが、同窓会は年代を超えて交わることの大切さを体感させてくれる。

現役の生徒達と同窓の先輩たちとの絆も存在する。卒業してもなお卒業生は母校の発展に期待しており、スポーツやクラブ活動での活躍や、大学進学での良好な結果を気にかける。卒業生にしてみれば母校の発展は自らの誇りである。この点で第一高校に多くの男子生徒が入学し、いろんな面で活躍し始めているというニュースは、私たちに何らかのインパクトを与えるであろう。また、在学生には先輩達の社会的な活躍や落ち着いた生活は、大きな勇気や希望を与え、頑張る力を呼び起こすものであろう。卒業生が演奏会や絵画展などを行い、第一線で活躍することは同窓生や生徒達にとって無限の励ましになるであろう。

同窓会の組織力が高校の行う事業を支援することもありうる。現に「しらうめコンサート」が生徒達の奨学金の基となっているように、特別行事などの寄付金集めによって母校をサポートする役目もある。

これからの時代の同窓会は、ただ単純に「懐かしさ」だけを求心力とした親睦団体に留まるべきでないという声も聴かれるが、それでもいいのではないだろうか。同窓の仲間が集い、昔話に花を咲かせることも意味あることだし、そこから新たな価値が生まれることもあろう。趣味などを通してのサークルづくりや、全く異なった世代との交流など自主的な活動は多様である。「同窓」という絆の中に自分たちの活動の可能性が秘められている。

学年委員一覧

委員長
3―10　三宅　忠和
3―3　大山　邦子
3―3　長野　良枝
3―4　高橋　多賀子
3―4　竹下　正生
3―5　松本　洋祐
3―6　日比野　睦子
3―7　榊原　由紀
3―7　亀井　一博
3―8　林田　直子
3―8　西浦　征一
3―9　三ヶ島　靖子
3―9　近藤　久美
3―10　深水　美子
3―10　堀切　孝子

3―11　又木　松
3―11　村岡　汎子
3―12　斉藤　良子
3―12　足立　照美
3―13　志田　メグミ
3―14　飯田　紘子
3―14　森　明子
3―15　高濱　千代香
3―16　嶋永　日出子
3―16　今田　理子
3―17　興津　美智子
3―18　松原　成子
3―18　田中　弓子
3―19　伊藤　ひろ子
3―19　遠藤　邦江

3―20　俵　美根子
3―20　濱　豊美
3―21　飯田　真知子
3―21　五賀　ゆき子
3―22　赤峰　糸子
3―22　太田　和子
3―23　渡辺　勉美
3―23　新居　裕子
3―24　林田　房子
3―24　柴田　直美
3―25　山隈　寛子
3―25　高藪　稲子
3―26　工藤　規峰子
3―26　田代　とよ子
3―27　村松　裕子

3―27　加藤　寿子
3―28　丸山　美保子
3―29　中岡　恭子
3―30　中村　弘子
3―30　松田　真理
3―31　小坂　貴子
3―32　有馬　陽子
3―33　田畑　貴美子
3―35　吉武　和子
3―36　長谷川　秀子
3―37　志藤　京子
3―39　武藤　直美
3―44　釜　夏菜子